

専修振り分け後に教科専門の講義を行うことの一考察

技術教育・森慎之助

1. 授業の概観

本授業は，技術教育の免許を取得するために必要な必修教科である。1 回生後学期に開講している。ここでは，木材に関する基礎知識と加工するための種々の方法などの教授を主体とし，その中に実習を含めて講義を行う内容である。

2. 授業評価法

評価はアンケート形式で行った。評価のための項目は授業法，教育媒体，難易度，達成度，満足度，科目独自などからなる。表 1 にアンケート質問内容を示す。受講生の内訳は技術専修の 6 名である。

表 1 アンケート質問項目

設問番号	設問内容
(1)	教官の話し方や説明により，授業内容（概念，理論など）が，わかりやすく講義された。
(2)	授業の内容・レベルはあなたにとって適切だった。（5段階評価）
(3)	授業を受講した目的が達成できた。
(4)	本授業により新しい知識，概念，技能を身につけることができた。
(5)	技術教育に関して興味・関心がわいてきた。木材に対して面白さを感じてきた。
(6)	木材・木材加工に対して興味・関心がわいてきた。
(7)	実際に木材を加工して製品を作製してみたいと思う。

3. 授業評価結果

1 回生は後学期に専修振り分けを行い，すぐに教科専門の授業を受講する。木材加工に関して，学生は中学時に中学校技術分野で「材料とものづくり」で学習済みであり，何らかの知識を持っているようである。しかし，口頭で質問してみると具体的なことはほとんど覚えていない状況であった。回答結果を図 1 に示す。グラフ内の数値は人数を示す。設問(2)の授業レベルは「やややさしい」から「難しい」まで幅広い回答となった。その中で，設問(4)，(5)，(6)の回答から，木材と加工に関して興味・関心は高まるようである。自由記述により，身についた知識，技術について回答をさせたところ「道具の使い方」，「ほぞ加工」と記述したものが全員であり，実体験をさせたものについてであった。ただ，試験の結果からは，その知識・理解の度合いは全体的に低いものとなり，評価内容として，優：2名，良：3，可：1名であった。興味・関

心の高さと知識・理解の低さのずれが，1 回生に対して教科専門を開講することの課題であると思う。金属加工も同様な結果となった。

□ と思う □ やや と思う □ やや と思わない

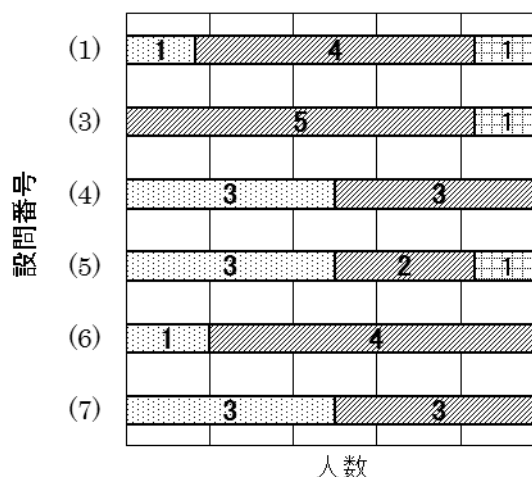


図 1 回答結果

授業評価からの推測でしかないが，3 年前から専修振り分けが後学期となり，学生は初めて教科専門科目を受講することになる。また，技術教育専修に関しては第一志望で所属した学生は一人もいなく，かつ，ほとんどが小学校教員志望である。以前は前学期に専修振り分けを行い，コース初歩学習で各教員が授業を行い，技術教育での概要を説明することで，教員との信頼関係が少しでも早く築くことができていた。そのことで技術教育に興味を持たせる時間があった。その時間がなくなり，いきなり専門教育を受けることになる。学生の方にも，自分は小学校教員志望だから，技術教育の科目は必修だけ我慢して受講すればいいとの考えを持っているようであり，その表れでないかと思われる。可の評価をせざるを得なくなったのは，3 年前からである。金属加工法 1 も同様である。

4. まとめ

興味・関心は高まるので，段階的に知識の定着を図り（小テストの取り入れ）ながら，知識・理解を高めるよう努力したい。